

池子の森自然公園環境調査

調査結果の概要

平成 27 年 6 月

逗 子 市

<目 次>

1.調査の目的	1
1-1 現地調査の目的	1
1-2 調査対象地	1
1-3 現地調査項目と調査時期等	2
2.動物調査結果	4
2-1 哺乳類	4
2-2 鳥類(一般鳥類・猛禽類・フクロウ類)	4
2-3 爬虫類・両生類	6
2-4 昆虫類	9
2-5 魚類	14
3.植物調査結果	16
3-1 植物相調査	16
3-2 植生	17
3-3 蘚苔類	17
4.自然資源などの調査	17
5.重要種の確認状況	18
6.調査結果のまとめ	20
現地調査結果参考図 1 植生図	22
現地調査結果参考図 2 蘚苔類調査結果	23
現地調査結果参考図 3 大径木、自然資源候補の分布	24

1.業務の目的

池子の森自然公園の整備に際しては、現状の自然を極力変えないことを方針としている。そのためには公園整備による自然環境への影響を最小限にし、とくに重要な動植物等については保全策を実施しながら管理・運営することが重要である。本業務は池子の森自然公園の自然環境の現地調査を行い、動植物について基本的な情報を収集するとともに、整備・管理の基本的な方針を検討することを目的とした。

1-1 現地調査の目的

現地調査の目的は以下のとおりである。

- ①池子の森自然公園の動植物について基本的な情報を収集すること。
- ②池子の森自然公園基本計画が自然環境により大きく損なわれないか確認し、必要に応じて保全策等を検討すること。

1-2 調査対象地

調査対象地は下図のとおり、池子の森自然公園とした。

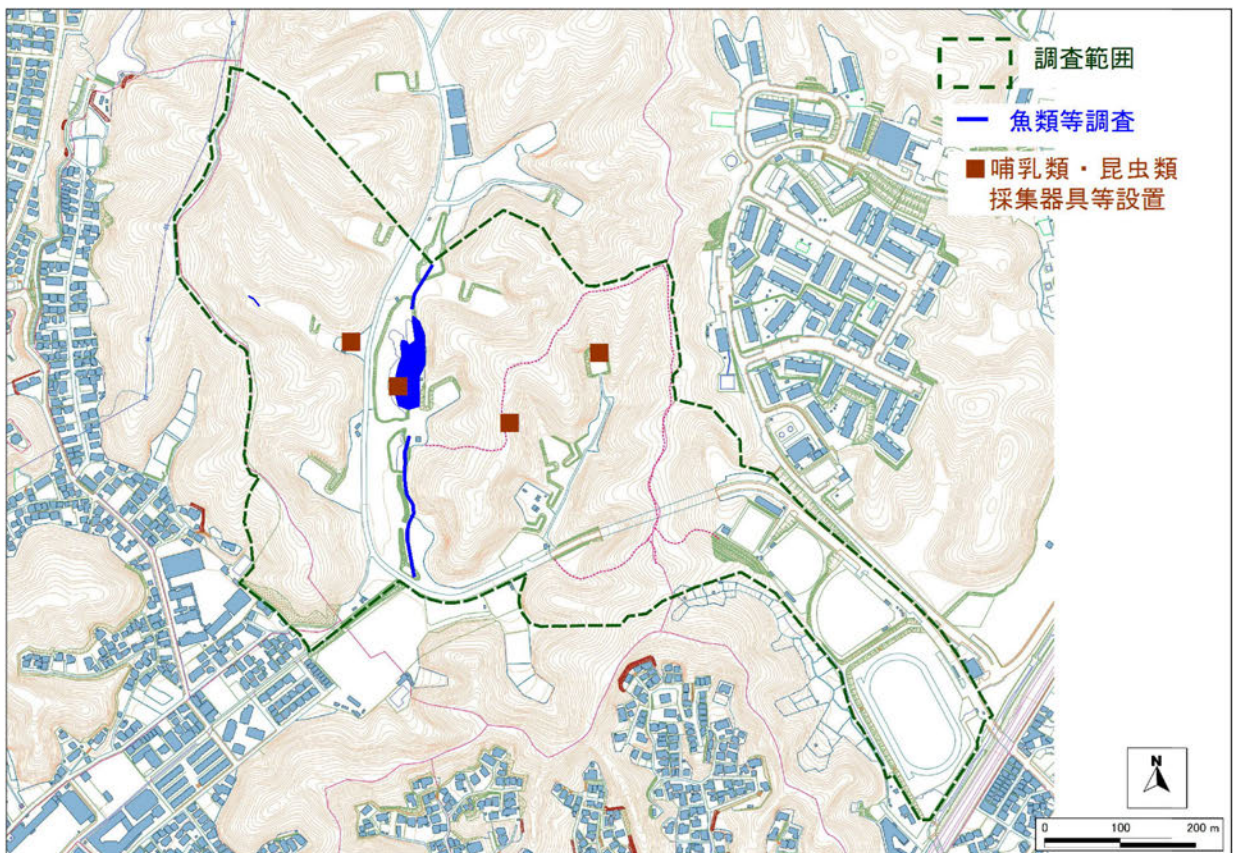


図 1-2 調査範囲

1-3 現地調査項目と調査時期等

現地調査の項目・実施時期は以下のとおりである。

表 1-3-1 調査項目と実施時期(動物)

項目	分類	調査方法	回数	調査時期	実施年月日
動物	哺乳類	・直接観察 ・トラップ(4地点) ・無人撮影(4地点)	3回	夏季 秋季 早春季 ※トラップは秋季、早春季	平成26年8月18・19日 11月5・6日 平成27年3月4・5日
	コウモリ類	・夜間調査 ・捕獲調査(手取り・捕虫網による捕獲)	3回	夏季 秋季 冬季(捕獲のみ)	平成26年8月18・19日 11月5・6日 平成27年1月8日
	鳥類 (一般鳥類)	・直接観察 ・定点センサス(3定点) ・ルートセンサス(2ルート)	5回	6月(繁殖後期) 8~11月(秋の渡り) 12~2月(越冬期1回) 3月(春の渡り) 5月(繁殖前期)	平成26年6月23・24日 10月14・16日 12月18・19日 平成27年3月23・24日 5月11・12日
	猛禽類	・定点観察(2定点)	3回	6~8月に各1回 (1日/1回)	平成26年6月23日 7月30日 8月25日
	フクロウ類	・夜間直接調査	2回	夜間: 繁殖前期(3月に1回) 繁殖後期(6月に1回)	平成26年6月12日 6月17日 6月20日 6月23日 6月30日 7月8日 平成27年2月27日 3月4・5日 3月23・24日 ホタル類調査時含む
	爬虫類・両生類	・直接観察	3回	夏季、秋季、早春季	平成26年8月18・19日 10月15・16日 平成27年3月4・5日
	昆虫類	・任意採集 ・ライトトラップ(4地点) ・ベイトトラップ(4地点)	4回	6,7月に各1回、 9~10月に1回 (夏季2回、秋季2回)	平成26年6月23・24日 7月28・29日 9月9・10日 10月27・28日
	ホタル類	・夜間調査 ・カワニナ調査	2回	夜間調査: 夏季(6~7月)	平成26年6月12日 6月17日 6月20日 6月23日 6月30日 7月8日

				カワニナ調査： 夏季1回(7月)	7月8日
	魚類調査	・任意採集 ・トラップ(1地点) タモ網、投網、トラ ップはセルビン・網 カゴ等による採集	3回	夏季 秋季 冬季	平成26年7月16日 9月18日 12月8日

表 1-3-2 調査項目と実施時期(植物)

項目	分類	調査方法	回数	調査時期	実施年月日
植物 (維管束植物)	植物相	・直接観察	3回	夏季 秋季 春季	平成26年9月9日 11月12・13日 平成27年5月11日
	水生植物	・直接観察	2回	夏季、秋季	平成26年9月9日 11月12・13日
	植生	・群落組成調査 ・植生図作成	1回	秋季	平成26年11月12・13日
蘚苔類		・任意採集	1回	春季	平成27年4月16・17日

2.動物調査結果

2-1 哺乳類

調査の結果、以下のとおり 9 種類の哺乳類が観察された。これらのうちアライグマは無人撮影装置で撮影されたほか、池でウシガエルを捕食する個体が直接観察されるなど、個体数は多いものと考えられる。

とくに注目すべきこととして、ヒナコウモリ科のユビナガコウモリの集団休息地が、調査地域内にある洞窟で確認されたことがあげられる。これは、9月中旬に洞窟内で多数の休息中のコウモリが発見されたことから、神奈川県・環境省の許可を得て 11 月 6 日に捕獲調査を実施し、同定したものである。

表 2-1 哺乳類調査結果

	綱	目	科	種	夏季	秋季	早春季	コウモリ類捕獲調査	その他の記録	重要種		外来種	
					H 26.18・19	H 26.11.5・6	H 27.3.4・5	H 26.11.6・H 27.1.8	環境省	神奈川県	外来生物法	外来種リスト	
1	哺乳類	モグラ(食虫)	ヒミズ	ヒミズ			●		●				
2			モグラ	アズマモグラ		●	●		●				
3		コウモリ(翼手)	ヒナコウモリ	ユビナガコウモリ				●	●	VU			
-				ヒナコウモリ科の一種(45kHz前後)	●	●			●				
4		ウサギ	ウサギ	ノウサギ	●		●						
5		ネズミ(齧歯)	ネズミ	アカネズミ		●	●		●				
6			リス	タイワンリス	●				●			特定外来	緊急対策
7		ネコ(食肉)	アライグマ	アライグマ	●	●	●		●			特定外来	緊急対策
8			イヌ	タヌキ	●	●	●		●				
9			ジャコウネコ	ハウビシン			●						総合対策
		5 目	9 科	9 種	5 種	5 種	7 種	1 種	8 種	0 種	1 種	2 種	3 種

●: 確認

種の配列は環境省野生生物目録に準拠

重要種 環境省第4次レッドリスト
 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
 神奈川県:神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006(神奈川県レッドデータブック)
 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 CR・EN:絶滅危惧I類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足
 減少種:希少種:要注意種 注目種 LP:不明種 絶滅のおそれのある地域個体群

外来種 外来生物法:特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律
 特定外来:特定外来生物:未判定:未判定外来生物
 外来種リスト:我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)環境省・農林水産省 平成27年3月26日
 緊急対策:緊急対策外来種
 重点対策:重点対策外来種
 その他:その他総合対策外来種
 産業管理:産業管理外来種



2-2 鳥類(一般鳥類・猛禽類・フクロウ類)

2-2-1 一般鳥類

調査の結果、猛禽類調査、フクロウ類夜間調査などを含めて27科53種類の鳥類が観察された。メジロやウグイス、エナガ、ヤマガラなど池子の森自然公園付近では留鳥として一年を通じて生息していると考えられる鳥類が多く確認された。夏季に渡来して繁殖していると考えられる夏鳥としては、オオルリやヤブサメ、センダイムシクイ、ホトトギス、冬季に越冬している冬鳥としては、アオジ、カシラダカ、シメなどがみられた。

水鳥は、池を中心にカルガモ、コガモ、カワセミ、アオサギなどが観察された。



サシバ(若鳥)



カワセミ



ホオジロガモ(本個体は嘴が黄色いことから若鳥の可能性はある)

2-2-2 猛禽類

定点観察の結果、ノスリ、サシバ、ツミの3種類が観察された。

行動内容は飛翔か樹上でのとまりであり、直接繁殖を示唆する行動は観察されなかった。ただし、サシバについては今年巣立った若鳥であり、近郊で繁殖した可能性がある。

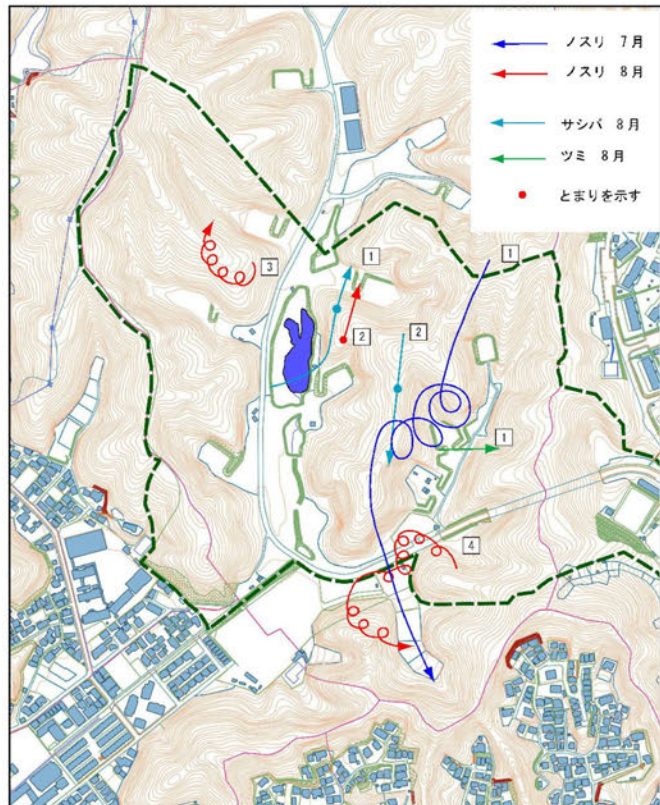


図 2-2-2 猛禽類の飛翔軌跡

2-2-3 フクロウ類

平成 26 年 6~8 月の期間ではフクロウは 3 回記録された。位置はいずれも東側の谷戸から谷戸の出口付近で、とくに 7 月 8 日には、声の位置から少なくとも 2 羽の声が聞かれた。

平成 27 年 3~4 月は、主に西側の尾根上で鳴き声が聞かれ、同時に 2 個体の声が聞かれることもあった。

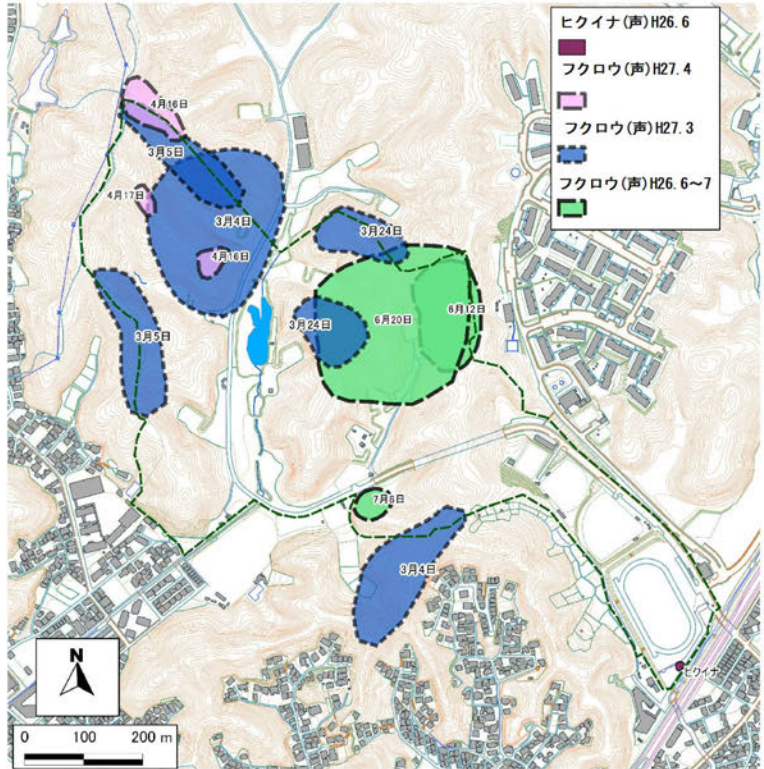


図 2-2-3 フクロウ類夜間調査結果

2-3 両生類・爬虫類

調査の結果、両生類は 4 種類、爬虫類は 6 種類が確認された。

これらのうち、ヤマアカガエルとアズマヒキガエルは卵による確認である。シュレーゲルアオガエルは鳴き声によるもので、東側の谷戸奥で確認された。

表 2-3-1 両生類・爬虫類調査結果

	綱	目	科	種	夏季	秋季	早春季	コウモリ類捕獲調査	その他の記録	重要種		外来種	
					H26.8.18・19	H26.11.5-6	H27.3.4・5	H26.11.6・H27.1.8	環境省	神奈川県	外来生物法	外来種リスト	
1	両生類	無尾	アカガエル	ウシガエル	●			-	●			特定外来	重点対策
2				ヤマアカガエル			●	-	●				
3			アオガエル	シュレーゲルアオガエル				-	●	要注意種			
4			ヒキガエル	アズマヒキガエル				-	●	要注意種			
1	爬虫類	カメ	イシガメ	クサガメ		●		-					
2			ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ	●			-	●				緊急対策
3		有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	●	●	●	-					
4			カナヘビ	ニホンカナヘビ	●	●	●	-	●				
5			ナミヘビ科	アオダイショウ		●		-	●	要注意種			
6			クサリヘビ	ニホンマムシ	●			-		要注意種			
	2綱	3目	9科	10種	5種	4種	3種	-	7種	4種	1種	2種	

種の配列は環境省野生生物目録に準拠

重要種 環境省第4次レッドリスト
 CR:絶滅危惧IA類,EN:絶滅危惧IB類,VU:絶滅危惧II類,NT:準絶滅危惧,DD:情報不足,LP:絶滅のおそれのある地域個体群
 神奈川県:神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006
 CR:絶滅危惧IA類,EN:絶滅危惧IB類,CR:EN:絶滅危惧類,VU:絶滅危惧II類,NT:準絶滅危惧,DD:情報不足,
 減少種,希少種,要注意種,注目種,LP:不明種絶滅のおそれのある地域個体群

外来種 外来生物法,特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律
 特定外来生物,未判定,未判定外来生物,
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト),環境省・農林水産省2015年3月26日
 緊急対策,緊急対策外来種
 重点対策,重点対策外来種
 その他,その他の総合対策外来種
 産業管理,産業管理外来種

表 2-2-1 鳥類調査結果(一般鳥類・猛禽類・フクロウ類調査)

No.	目	科	種	繁殖後期 H26.6.23- 24	秋の渡り H26.10.14- 16	越冬期 H26.12.18- 19	春の渡り H27.3.23- 24	繁殖期 H27.5.11- 12	その他	猛禽類調 査 H26.6~8	フクロウ類 調査 H26.6 H27.2-3	重要種 環境省	神奈川県	外来生物 外来生物 法
1	バリのガン	ウ	カワウ											
2	コウノトリ	ウ	コノハシ											
3		ウ	コノハシ											
4		ウ	コノハシ											
5		カモ	アオサギ											
6		カモ	アオサギ											
7		カモ	アオサギ											
8		カモ	アオサギ											
9		カモ	アオサギ											
10	タカ	タカ	ホオジロガモ											
11		タカ	ホオジロガモ											
12		タカ	ホオジロガモ											
13		タカ	ホオジロガモ											
14		タカ	ホオジロガモ											
15		タカ	ホオジロガモ											
16	キジ	キジ	コジュケイ											
17	ツル	クイナ	クイナ											
18	ハト	ハト	キジバト											
19		ハト	キジバト											
20	カッコウ	カッコウ	アオバト											
21	フクロウ	フクロウ	ホトトギス											
22	フクロウ	フクロウ	ホトトギス											
23	フクロウ	フクロウ	ホトトギス											
24	フクロウ	フクロウ	ホトトギス											
25	スズメ	ツバメ	ツバメ											
26		セキレイ	ハクセキレイ											
27		セキレイ	ハクセキレイ											
28		ヒヨドリ	ヒヨドリ											
29		モズ	モズ											
30		ツグミ	ルリビタキ											
31		ツグミ	ルリビタキ											
32		ツグミ	ルリビタキ											
33		ツグミ	ルリビタキ											
34		チドリ	ガビチョウ											
35		ウグイス	ウグイス											
36		ウグイス	ウグイス											
37		ヒタキ	センダイムシクイ											
38		ヒタキ	センダイムシクイ											
39		ヒタキ	センダイムシクイ											
40		エナガ	エナガ											
41		エナガ	エナガ											
42		メジロ	メジロ											
43		メジロ	メジロ											
44		ホオジロ	ホオジロ											
45		ホオジロ	ホオジロ											
46		アトリ	アトリ											
47		アトリ	アトリ											
48		アトリ	アトリ											
49		ハタオリドリ	ハタオリドリ											
50		ムクドリ	ムクドリ											
51		ムクドリ	ムクドリ											
52		カラス	ハシボソガラス											
53		カラス	ハシボソガラス											
54		カラス	ハシボソガラス											
55		カラス	ハシボソガラス											

環境省第4次レッドリスト
神奈川県、神奈川県レッドリスト
CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
減少種 希少種 注:重要種 注:目録LP不明種絶滅のおそれのある地域個体群
特定外来種 特定外来生物 未特定外来生物 未特定外来種
緊急対策 緊急対策外来種
重点対策 重点対策外来種
その他 産地管理 産地管理外来種

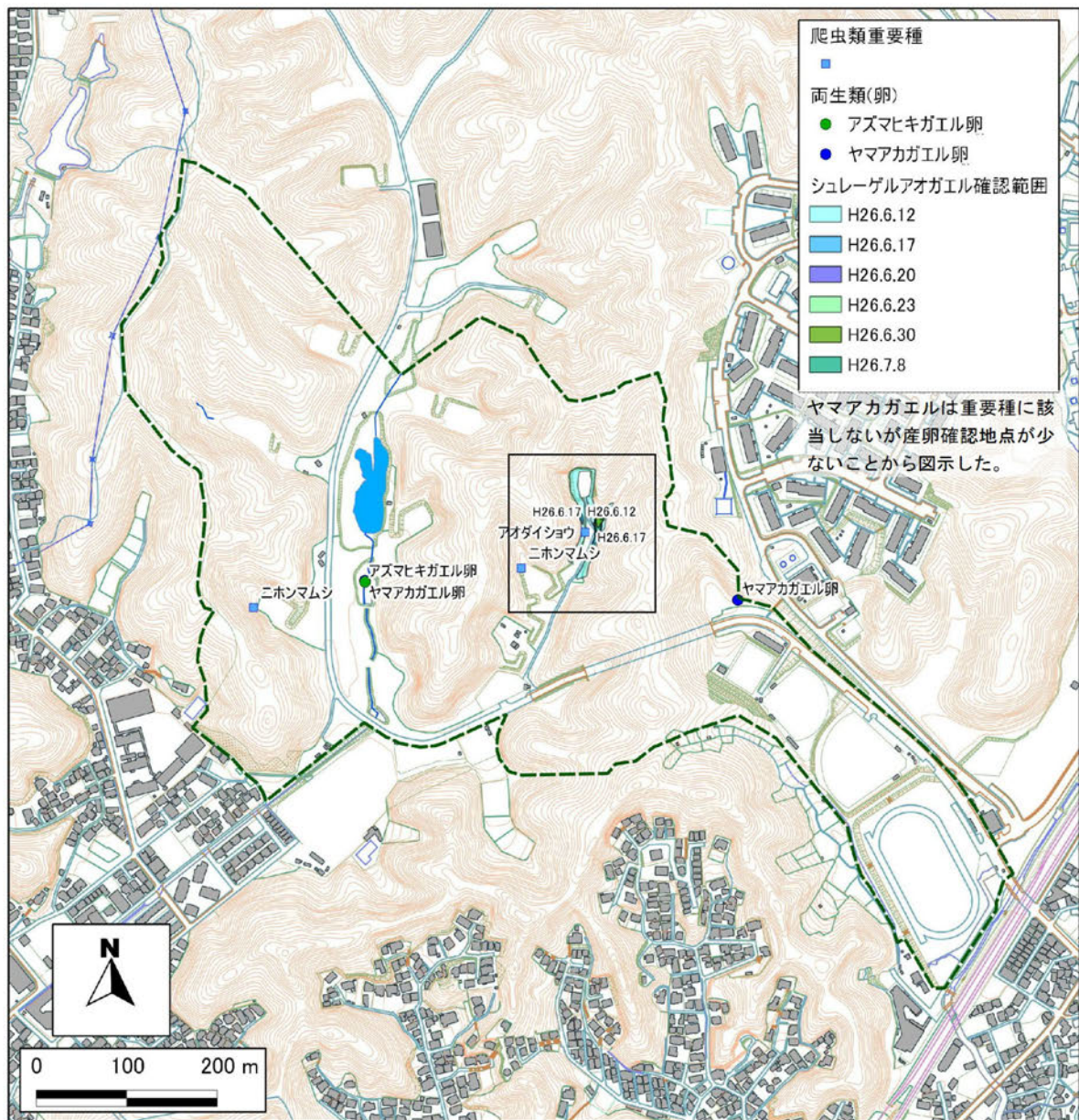


図 2-3-1(1) 両生類・爬虫類重要種等位置

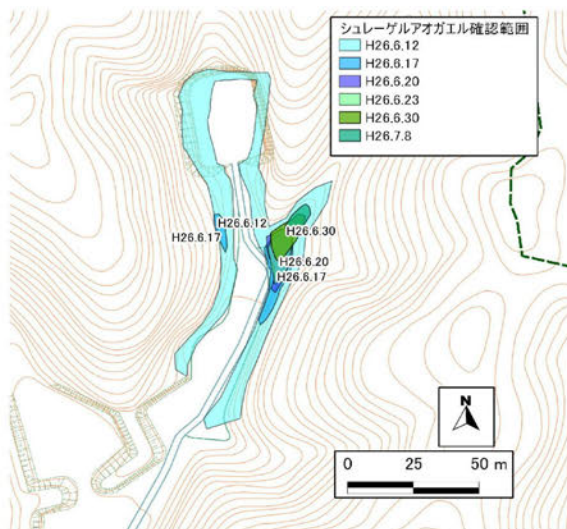


図 2-3-1(2) シュレーゲルアオガエルの確認範囲

2-4 昆虫類

2-4-1 昆虫類(一般昆虫類)

今回の調査では、17目212科901種の昆虫が確認された。

池の周りではウチワヤンマ、ギンヤンマ、ショウジョウトンボなどのトンボ類が豊富である。チョウ類ではモンキアゲハ、カラスアゲハ、ナガサキアゲハなどのアゲハ類、ルリシジミ、ウラギンシジミなどのシジミ類、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲなどのジャノメチョウ類などが多く、甲虫ではハンミョウ、アオオサムシなど、バッタ類ではヤブキリやクビキリギス、サトクダマキモドキ、ツチイナゴなど、また、林縁部や草地に生息するオオカマキリ、照葉樹林に生息するヒナカマキリが確認されている。

表 2-4-1 昆虫調査結果の概要

	目名	科数	種類数
1	イシノミ	1	1
2	トンボ	7	18
3	ゴキブリ	1	3
4	カマキリ	1	3
5	バッタ	11	28
6	ナナフシ	1	1
7	ハサミムシ	1	1
8	チャタテムシ	1	2
9	アザミウマ	1	1
10	カメムシ	40	131
11	アミメカゲロウ	5	11
12	コウチュウ	65	389
13	ハチ	22	96
14	シリアゲムシ	1	2
15	ハエ	33	87
16	トビケラ	5	5
17	チョウ	17	122
	合計	213	901



2-4-2 ホタル調査(夜間調査)

平成 26 年 6～7 月の夜間にホタル類の発光成虫の調査を行った。

ゲンジボタルは 6 月 12 日が 14 個体と最も多く観察され、次いで 6 月 30 日に 8 個体が観察された。ヘイケボタルは 6 月 30 日が最も多く 26 個体で、次いで 6 月 23 日の 6 個体となっている。

それぞれの種について、観察された位置をみると、ゲンジボタルは池の下流側で最も多く観察されており、調査を開始した 6 月 12 日に約 10 個体が同時に発光していたほか、それより下流よりでも数個体が観察された。次いで西側の谷戸で 6 月 30 日と 7 月 8 日に各 5 個体の発光が観察された。ほかにまとめて観察されたのは池上流側の竹林で 6 月 23 日に 3 個体である。以上の他、流路のない東側の谷戸でも 1 個体が 6 月 30 日に観察された。

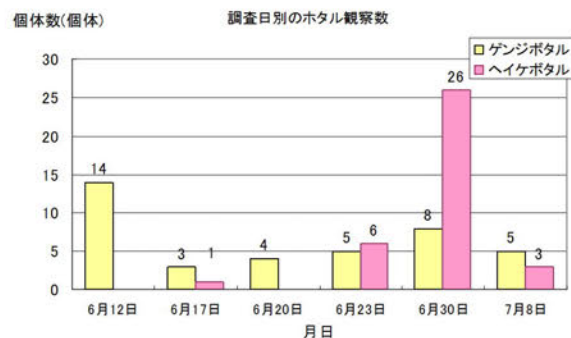


図 2-4-2(1) ホタル発光個体数の推移

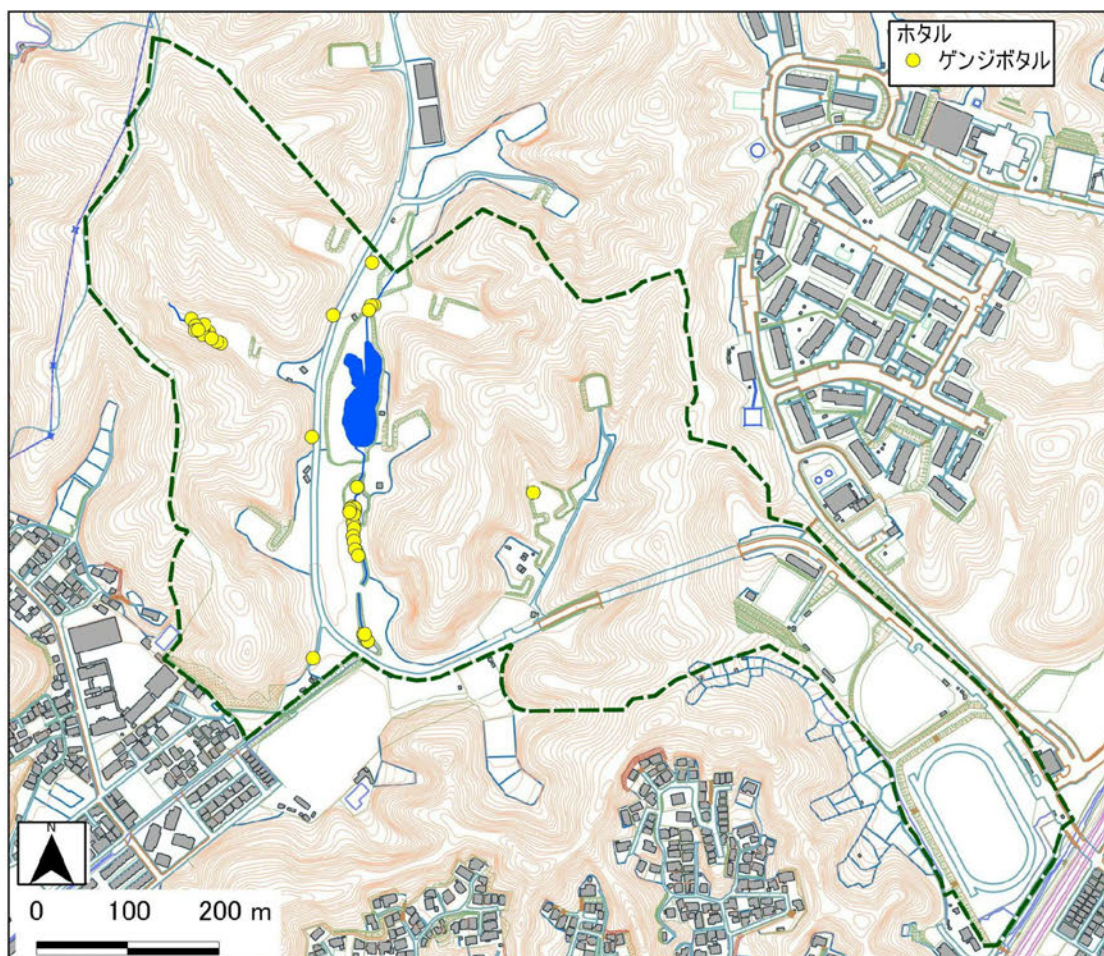


図 2-4-2(2) ゲンジボタル位置図

ハイケボタルについてみると、全体的な分布はゲンジボタルとほとんど同様であるが、最も集中して観察されたのは池上流側の竹林内で、6月30日には16個体が同時に発光するのが観察された。

また、東側の谷戸でも6月30日に2個体が観察されている。

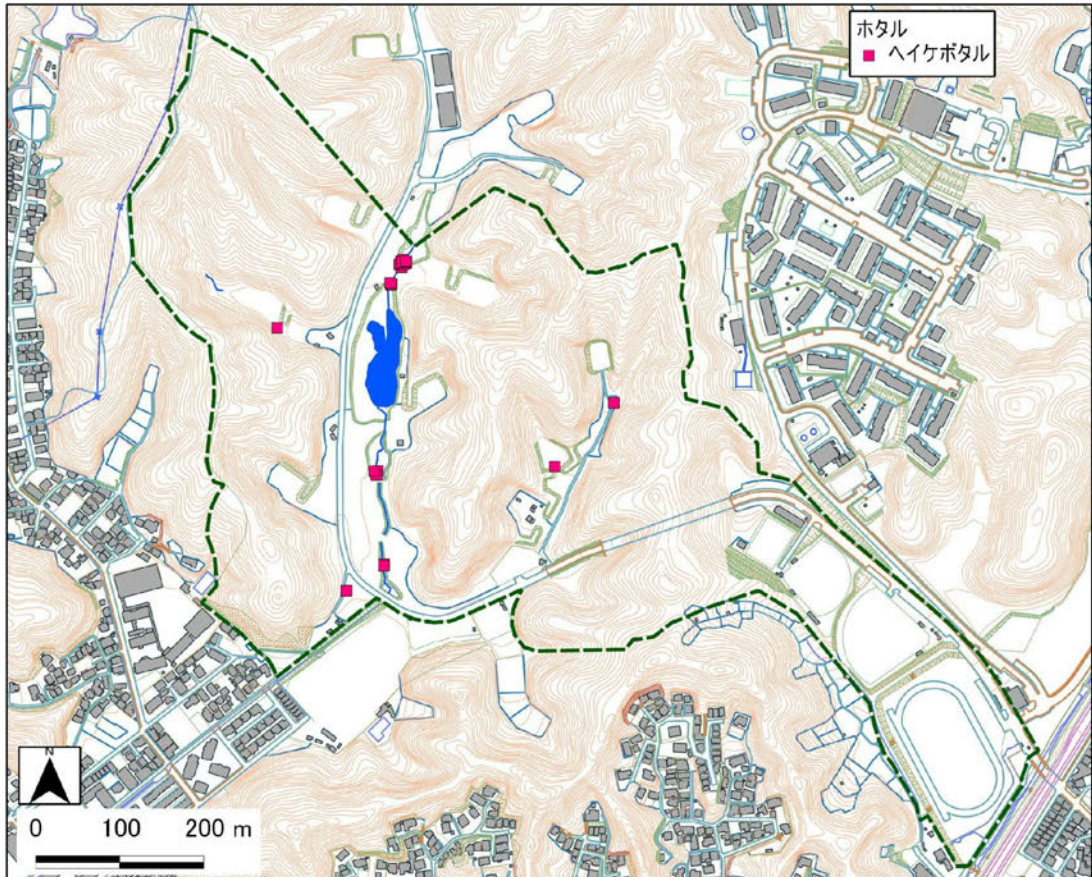


図 2-4-2(3) ハイケボタル位置図



2-4-3 カワニナ調査

ホタル幼虫の餌となるカワニナの分布を把握することを目的として、カワニナ調査を7月8日に実施した。

公園内の水路、池を周囲の環境などから7区間に分け、各区間で定量採集(25cm×25cm 方形枠、2~4回)を行った。

調査区間の位置を下図に示す。

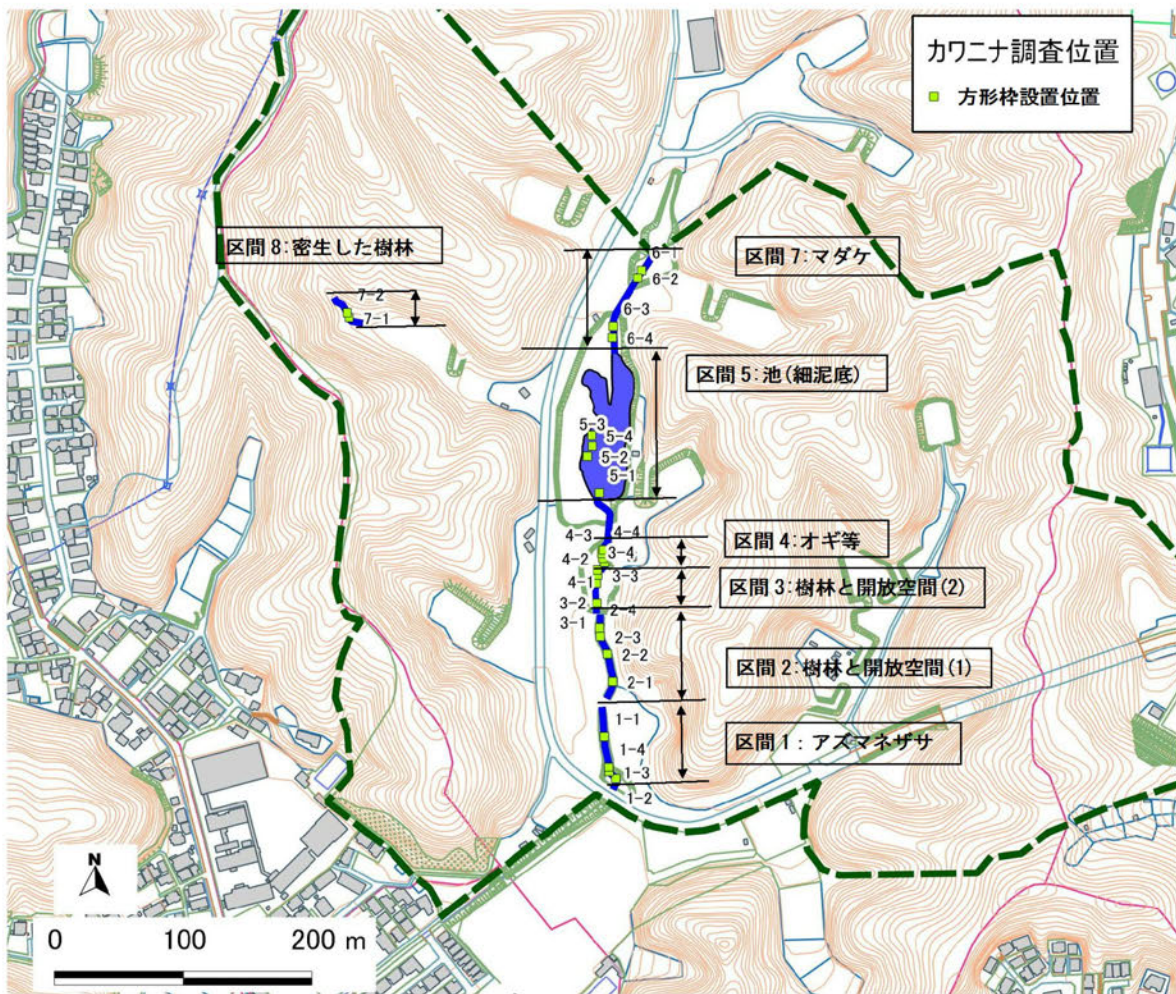


図 2-4-3(1) カワニナ調査位置

カワニナの個体数をみると、区間1が最も多く134個体、次いで区間4が62個体、区間3が30個体となっており、池より下流で多くなっている。

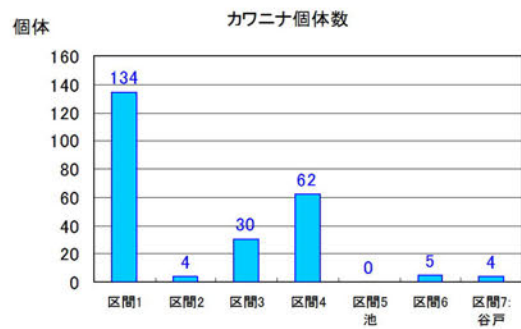


図 2-4-3 (2) カワニナ調査区間

カワニナ(生貝)の個体数を殻高2mm間隔で整理すると明瞭な2峰型を示しており、最頻値は18~20mmの28個体、次いで8~10mmの27個体となっている。16mm以下を便宜的に幼貝とすると、幼貝は107個体で全体の44.8%、成貝は132個体で55.2%を占めている。

※:カワニナは殻高1cm程度でも繁殖すると言われており、便宜的に16mm以下を幼貝とした。

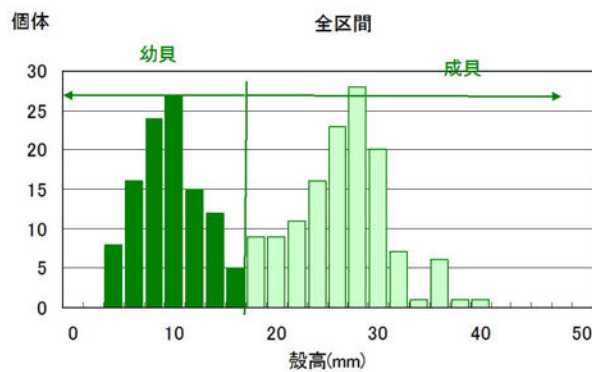
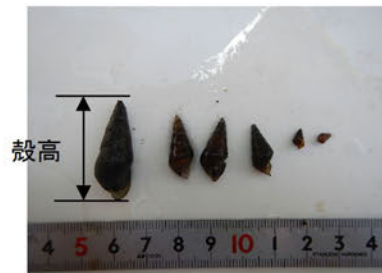


図 2-4-3 (3) カワニナの殻高の分布



2-5 魚類

公園内の水路、池を適宜区分した上で投網、タモ網、サデ網、網カゴ・セルピンの漁具を用いて魚類を採捕した。調査の結果、魚類はギンプナ、メダカ、シマヨシノボリなど7種類 1,178 個体が採捕された。最も個体数が多かったのはメダカで、とくに秋季に池で977 個体がセルピンで採捕された。このほかシマヨシノボリが52 個体、ギンプナが15 個体などとなっている。コイは目視によるもので、池の中を遊泳する大型の個体が目撃されている。

エビ・カニ類では、ヤマトヌマエビ、トゲナシヌマエビ、ヒラテテナガエビ、ヌカエビなど10 種類、貝類はカワニナなど3 種類が確認された。

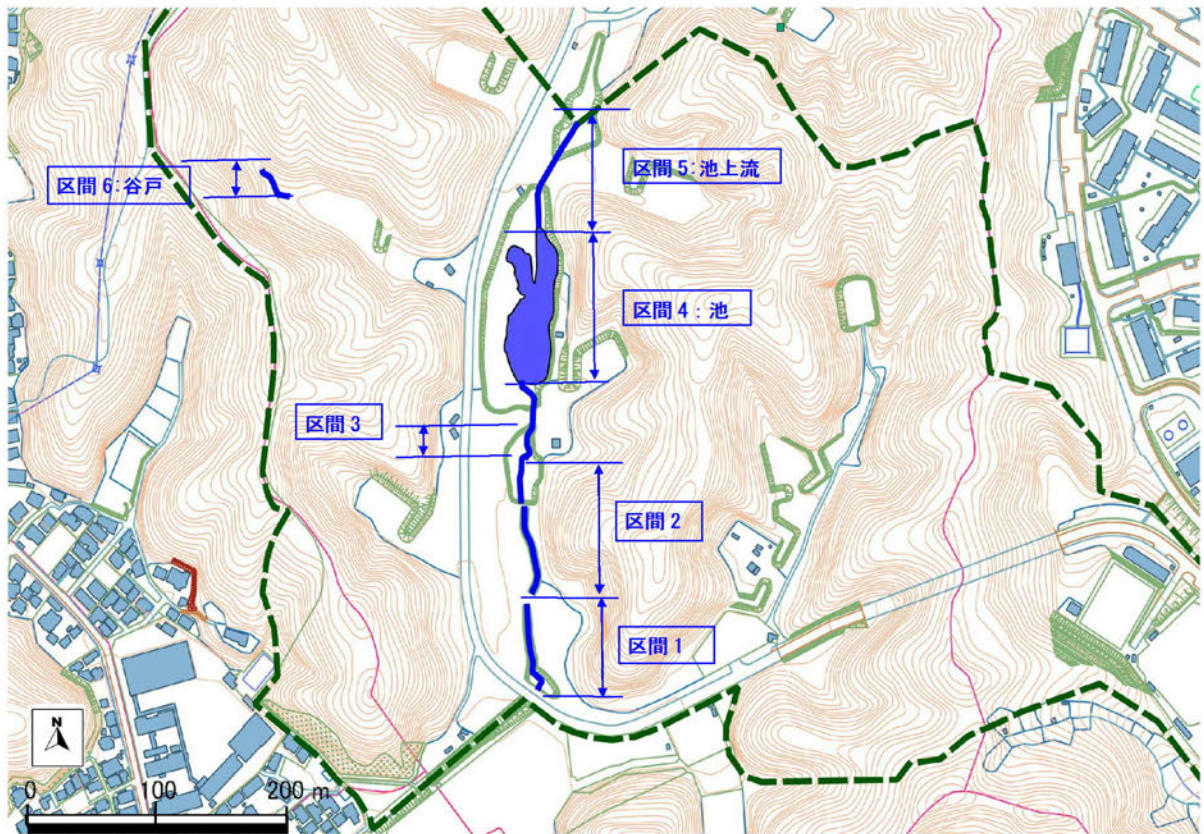


図 2-5-1 魚類調査位置

表 2-5-1 魚類調査結果

(個体数)

No.	種	目	科	夏季 平成26年7月16日						秋季 平成26年9月18日						冬季 平成26年12月18日						小計	重要種 2012-2013	神奈川県 2006	外来種 外来生物法						
				期間1		期間2		期間3		期間4		期間5		期間6		期間1		期間2		期間3						期間4		期間5		期間6	
				区間1	区間2	区間3	区間4	区間5	区間6	小計	区間1	区間2	区間3	区間4	区間5	区間6	小計	区間1	区間2	区間3	区間4					区間5	区間6	小計	合計		
1	魚類	コイ	コイ																					1							
2				キンブナ			1																	15		DD					
3				ドジョウ			15																	1		EN					
4			スズキ	ハゼ	10	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17		EN					
5																								5		NT					
6				ウキゴリ																				5							
7			ダツ	メダカ	2	2	22	20																993		VU					
					魚類計	12	8	23	38	81	9	9	16	986	3	1,023	10	2	27	16	19	74	1,178								
1				ヤマメ																				9							
2				ミノウナギ																				1							
3				トゲナガエビ	3	3	2					44	24											71							
4				テナガエビ	39	26	21					8	4	2										15							
5																								3							
6																								2							
7																								1							
8				アマリガリガニ	1	3	16					11	8	5	4									28							
9				モウズガニ	8	1						4	4	4	2									14							
10				サワガニ	1	1						1	1											1							
					エビ・カニ類計	54	41	45	1	141	19	61	47	10	8	145	22	52	85	17	99	275	561								
1	貝類			カワナ	47	6	10	1				44	4	24	2									74							
2				サカキガイ																				1							
3				シジミ	1	3						4	7	1	1	12	1	1	1	1	1	2	18								
					貝類計	47	8	13	1	69	44	8	31	1	2	86	14	6	12	2	34	189									
					総計(個体)	113	57	81	39	1	291	72	78	94	997	13	1,254	46	60	124	33	120	383	1,928		4種類					
					重量(g)	67	84	171	45	10	-	377	48	88	223	19	430	34	35	51	11	40	-	171		1種類					

環境省新第4次レッドリスト
 環境省新第4次レッドリスト(データ不確実種) 重2006 CR
 神奈川県レッドリスト(データ不確実種) 重2006 CR
 神奈川県レッドリスト(データ不確実種) DD
 神奈川県レッドリスト(データ不確実種) NT
 神奈川県レッドリスト(データ不確実種) VU
 神奈川県レッドリスト(データ不確実種) EN
 神奈川県レッドリスト(データ不確実種) NT
 神奈川県レッドリスト(データ不確実種) CR

環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) 重2006 CR
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) DD
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) NT
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) VU
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) EN
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) NT
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) CR

環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) 重2006 CR
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) DD
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) NT
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) VU
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) EN
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) NT
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) CR

環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) 重2006 CR
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) DD
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) NT
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) VU
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) EN
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) NT
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) CR

環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) 重2006 CR
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) DD
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) NT
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) VU
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) EN
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) NT
 環境省新第4次レッドリスト(特定外来生物) CR

3.植物調査結果

3-1 植物相

調査の結果、111科503種の植物(維管束植物)が確認された。

公園内の森林は、尾根上や斜面にヤマユリやホトトギス、カントウカンアオイなどの草本がみられ、谷戸の湿った立地にはヤブミョウガやウワバミソウ、タマアジサイが多く生育している。また、池の周囲や下流側の久木川沿いは湿地となっており、ヨシが茂るほか、ハンゲショウの群落がみられ、また重要種であるタコノアシもみられた。

表 3-1-1 植物相調査結果の概要

分類				科数	種類数
シダ植物				12	45
種子植物	裸子植物			6	6
	被子植物	双子葉植物	離弁花類	57	211
			合弁花類	23	123
		単子葉類		13	118
合計				111	503



ホトトギス(逗子市の花)



ヤマユリ(神奈川県の花)



ムラサキニガナ



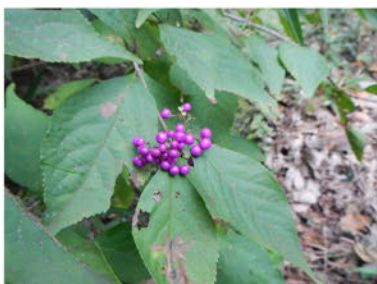
カントウカンアオイ



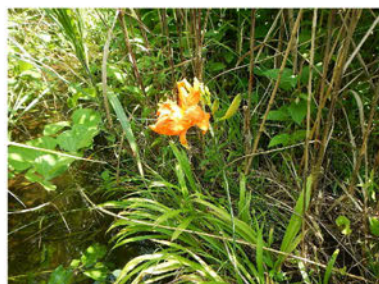
タマアジサイ



ハンゲショウ



ムラサキシキブ



ヤブカンゾウ



ヤブミョウガ

3-2 植生

航空写真等により調査対象地内の植生を区分し、現地踏査により群落を確認した上で植生図を作成した。池子の森を特徴づける主要な植物群落(コナラ群落 1 箇所、スタジイ群落 2 箇所、ケヤキ群落 1 箇所)について、コードラートによる群落組成調査を実施した。

植生図を現地調査結果参考図(30 頁)に示す。

3-3 蘚苔類

池子の森における蘚苔類相を把握することを目的として、蘚苔類の調査を平成 27 年 4 月 16・17 日に行った。

調査の結果、蘚類 31 種類、苔類 15 種類の計 46 種類が確認された。確認されたコケ植物の多くは、本州から九州にかけて広く分布するものであった。

4.自然資源等の調査

公園の自然や歴史などを理解し、環境教育などに活用していくための自然資源となる植物や景観などを動植物の調査結果や現地踏査により把握した。

自然資源の対象としては、池子の森を特徴づける大径木や花木、森林景観などとした。

5.重要種の確認状況

重要種の選定基準は以下のとおり、法令やレッドデータブックに記載されている種とした。

表 5-1 重要種の選定基準

No.	区分	カテゴリー
1	種の保存法の指定種 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年 6 月 5 日)	国内希少野生動植物種 国際希少野生動植物種 緊急指定種
2	天然記念物(文化財保護法) 文化財保護法(国)・文化財保護条例(自治体)の天然記念物	国・神奈川県・逗子市
3	環境省レッドリスト掲載種 環境省第 4 次レッドリスト (平成 24 年(2012 年)・平成 25 年(2013 年))	CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足
4	神奈川県レッドデータブック(神奈川県 RDB) 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(平成 18 年)	CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧, 減少種,希少種,要注意種,注目種, DD:情報不足,不明種

調査により確認された重要種を下表に示す。

表 5-2 重要種一覧

No.	分類	目	科	種類	環境省	神奈川県			
1	哺乳類	コウモリ(翼手)	ヒナコウモリ	ユビナガコウモリ		VU			
1	鳥類	タカ	タカ	ミサゴ	NT	VU:繁殖期,NT:非繁殖期			
2				オオタカ	NT	VU:繁殖期,希少:非繁殖期			
3				ツミ		VU:繁殖期,希少:非繁殖期			
4				ノスリ		VU:繁殖期,希少:非繁殖期			
5				サンバ		VU	CR・EN:繁殖期		
6				ツル	クイナ	ヒクイナ	NT	CR・EN:繁殖期	
7				ハト	ハト	アオバト		注目種:繁殖期・非繁殖期	
8				フクロウ	フクロウ	フクロウ		NT:繁殖期	
9				スズメ	ツバメ	ツバメ		減少種:繁殖期	
10						セキレイ	セグロセキレイ		減少種:繁殖期
11						モズ		減少種:繁殖期	
12						ウグイス	ヤブサメ		NT:繁殖期
13						センダイムシクイ		NT:繁殖期	
14						ヒタキ	オオルリ		NT:繁殖期
15						アトリ	カワラヒワ		減少種:繁殖期
1	両生類	無尾	アオガエル			シュレーゲルアオガエル		要注意	
2			ヒキガエル	アズマヒキガエル		要注意			
1	爬虫類	有鱗	ナミヘビ科	アオダイショウ		要注意			
2			クサリヘビ	ニホンマムシ		要注意			
1	昆虫類	トンボ	カワトンボ	ハグロトンボ		要注意			
2			イトトンボ	クロイトトンボ		要注意			
3			サナエトンボ	コサナエ		EN			
4				ヤマサナエ		要注意			
5			トンボ	リスアカネ		要注意			
6			バッタ	ケラ	ケラ		要注意		
7				バッタ	ショウリョウバッタモドキ		要注意		
8			カメムシ	ゲンバウムシ	ヤブガラシゲンバウムシ		DD		
9			コウチュウ	オサムシ	アトモンコミズギクゴミムシ		NT		
10					アシミゾナガゴミムシ		NT		
11		ナカグロキバネクビナガゴミムシ				VU			
12		ホタル			ヘイケボタル		NT		
13		カッコウムシ			ヤマトヒメメダカカッコウムシ		VU		
14		カミキリムシ			キイロトラカミキリ		要注意		
15		ミズスマシ			オオミズスマシ		CR		
16		ハチ			スズメバチ	ヤマトアシナガバチ		DD	VU
17						モンズズメバチ		DD	
18						ギンギチバチ	ニッポンハナダカバチ		VU
19			ヤマトスナハキバチ			DD			
20			ミツバチ	ナミルリモンハナバチ		DD			
1	魚類	コイ	コイ	コイ		DD			
2			ドジョウ	ホトケドジョウ		EN	EN		
3			スズキ	ハゼ	クロヨシノボリ		NT		
4			ダツ	メダカ	メダカ(ミナメダカ)		VU	CR	
1	植物	離弁花類	ベンケイソウ	タコノアシ		NT			
2		単子葉類	イグサ	ヒメコウガイゼキショウ		CR			
3			ラン	エビネ		NT	VU		
1	蘚苔類	蘚類	センボンゴケ	ダندانゴケ		VU	VU		
2		苔類	ハイゴケ	コウライイチイゴケ		VU	VU		

重要種 環境省第4次レッドリスト CR:絶滅危惧IA類,EN:絶滅危惧IB類,VU:絶滅危惧II類,NT:準絶滅危惧,DD:情報不足,LP:絶滅のおそれのある地域個体群
 神奈川県,神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006(神奈川県レッドデータブック)
 CR:絶滅危惧IA類,EN:絶滅危惧IB類,CR・EN:絶滅危惧II類,VU:絶滅危惧II類,NT:準絶滅危惧,DD:情報不足,
 減少種,希少種,要注意種,注目種,LP:不明種絶滅のおそれのある地域個体群

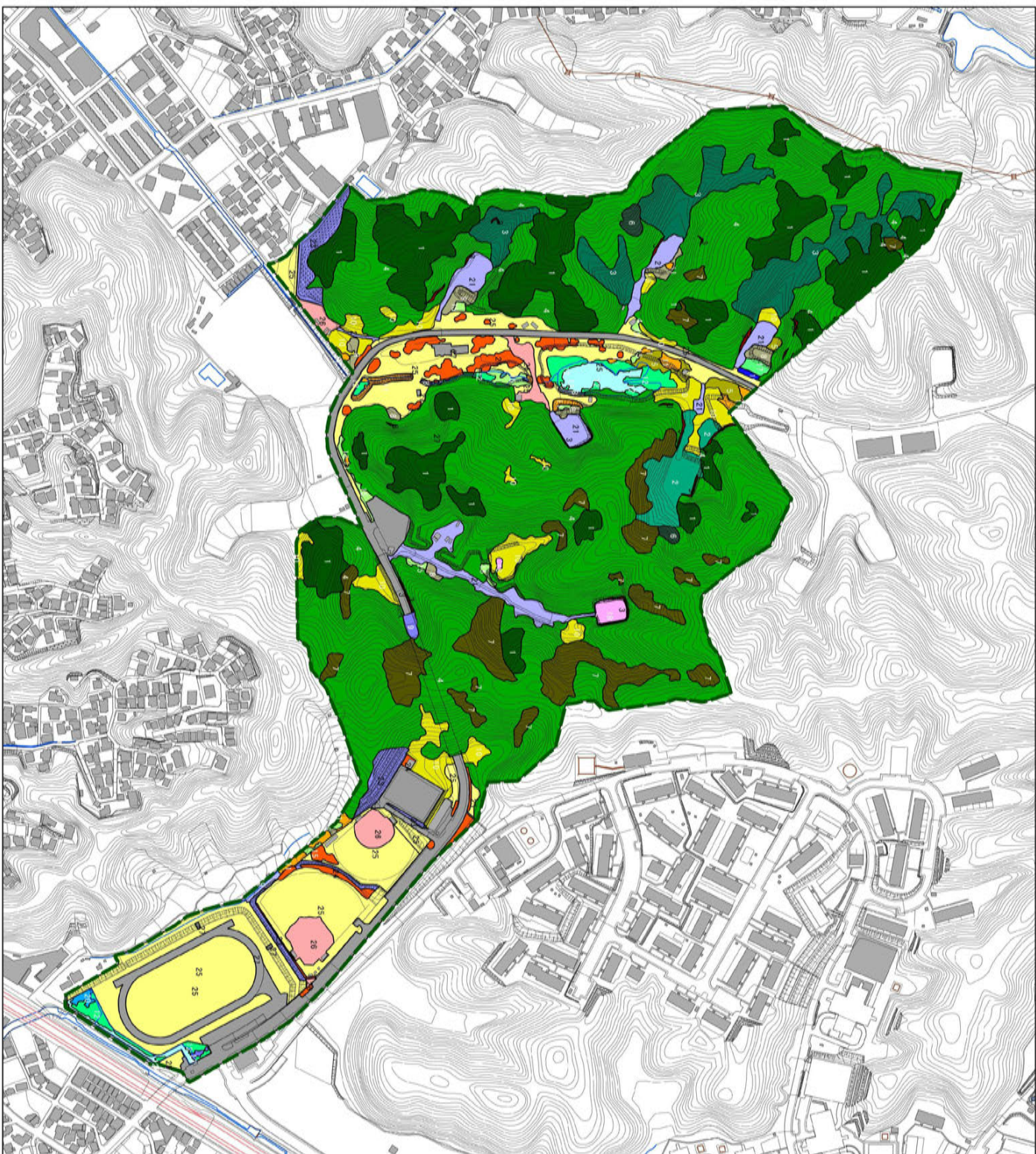
6.調査結果のまとめ

池子の森自然公園を特徴づける自然環境としては以下のものがあげられる。

表 6-1 現地調査の結果のまとめ

No.	項目	内容
①	久木川のホタル生息地	<p>久木川のホタル(ゲンジボタル、ヘイケボタル)の生息地は幼虫の餌となるカワニナが多く、ホタルの生息条件が整っている。</p> <p>ホタル類は市民の関心が高く、また健全な水辺の指標とされることがある。久木川のホタル生息地は現状のまま維持するとともに、環境教育の場として活用することが考えられる。</p>
②	ユビナガコウモリの集団が生息する洞窟	<p>洞窟にはユビナガコウモリの集団休息地がある。</p> <p>三浦半島では、かつてはコウモリ類の生息する洞窟が存在したが、その多くは閉鎖され、コウモリ類が見られなくなるとされる。今回発見されたユビナガコウモリの生息する洞窟は重要なものと言える。</p> <p>ユビナガコウモリが休息するためには、静穏な洞窟が必要であり、興味本位の観察や入洞が行われないように柵を設置することが望ましい。</p>
③	池や久木川周辺の昆虫と水生生物	<p>久木川や池とその周辺ではトンボ類が豊富であり、重要とされる昆虫類が集中して確認されている。</p> <p>これらの種の多くは、水辺に依存しており、水辺の植生の保全が必要である。</p> <p>昆虫以外の水生生物では、多数確認されたマシジミが注目すべきものである。文献によると、県内ではマシジミの生息地はきわめて少ないとされている。</p> <p>久木川及び池やその周辺の昆虫や水生生物の生息地は重要なものと考えられ、水辺の植生の保全とともに水生生物の放流等は行わないように管理することが重要である。</p>
④	シュレーゲルアオガエルの生息地	<p>シュレーゲルアオガエルは、東側の谷戸のみで生息が確認されている。</p> <p>レクリエーションエリアの整備にあたっては、産卵のための水域や成体の生息環境である森林を保全するなど本種の生息に配慮した内容とすることが望ましい。</p>
⑤	森林性鳥類の生息地	<p>オオルリやヤブサメ、センダイムシクイといったまとまった規模のある森林に生息する夏鳥が確認されたほか、ウグイスやホトトギスなどの小鳥類が豊富にみられている。</p> <p>さらに食物連鎖の上位に位置するフクロウが頻繁に確認されている。フクロウの営巣には洞のある大木が適するとされており、公園内の森林を象徴する存在と言える。</p> <p>こうした鳥類の生息環境を維持するためには、森林の植生を維持することが望ましい。</p>

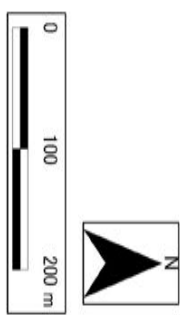
⑥	エビネをはじめとする山野草	<p>公園内の森林には重要種であるエビネや重要種には該当しないがヤマユリやヤマツツジなど美しい花をつける山野草や花木が豊富にみられる。</p> <p>こうした植物は、神奈川県内の平野部では数が少なくなっており、その原因の一つとして園芸目的での採取が考えられる。</p> <p>森林保全エリアや水環境保全エリアのオープン後、採取により減少することが懸念され、見回りなどにより採取を防止するなど適切な管理が望ましい。</p>
⑦	発達した森林と多様な植生	<p>公園内の森林は約 80 年間、管理されず自然に遷移が進行していると考えられ、コナラなどからなる落葉広葉樹林、スダジイなどからなる常緑広葉樹林、斜面にみられるケヤキ林など多様な森林植生がみられる。これらを構成する樹木は大きく成長しており、短期間に再生することはできないことから池子の森自然公園の大きな特徴と言える。</p> <p>また、久木川と池及び池周囲のヨシ群落は重要な生息場所となっていることに加え、池子の森自然公園の景観上、大きな特徴となっている。</p> <p>こうした水辺の自然環境は踏みつけなど人的な改変に弱く、立入の制限などの保全策を行うことが望ましい。</p>
⑧	崖ややぐら、洞窟	<p>公園内にみられる崖ややぐら、洞窟の多くは人為的につくられたものと考えられるが、シダ類や蘚苔類などが豊富に生育し、独特の景観を有している。</p> <p>やぐらや洞窟は、崩壊などの危険があることから広く公開することが困難であるが、池子の森自然公園の自然あるいは歴史的な資源として次世代に残す必要がある。</p>

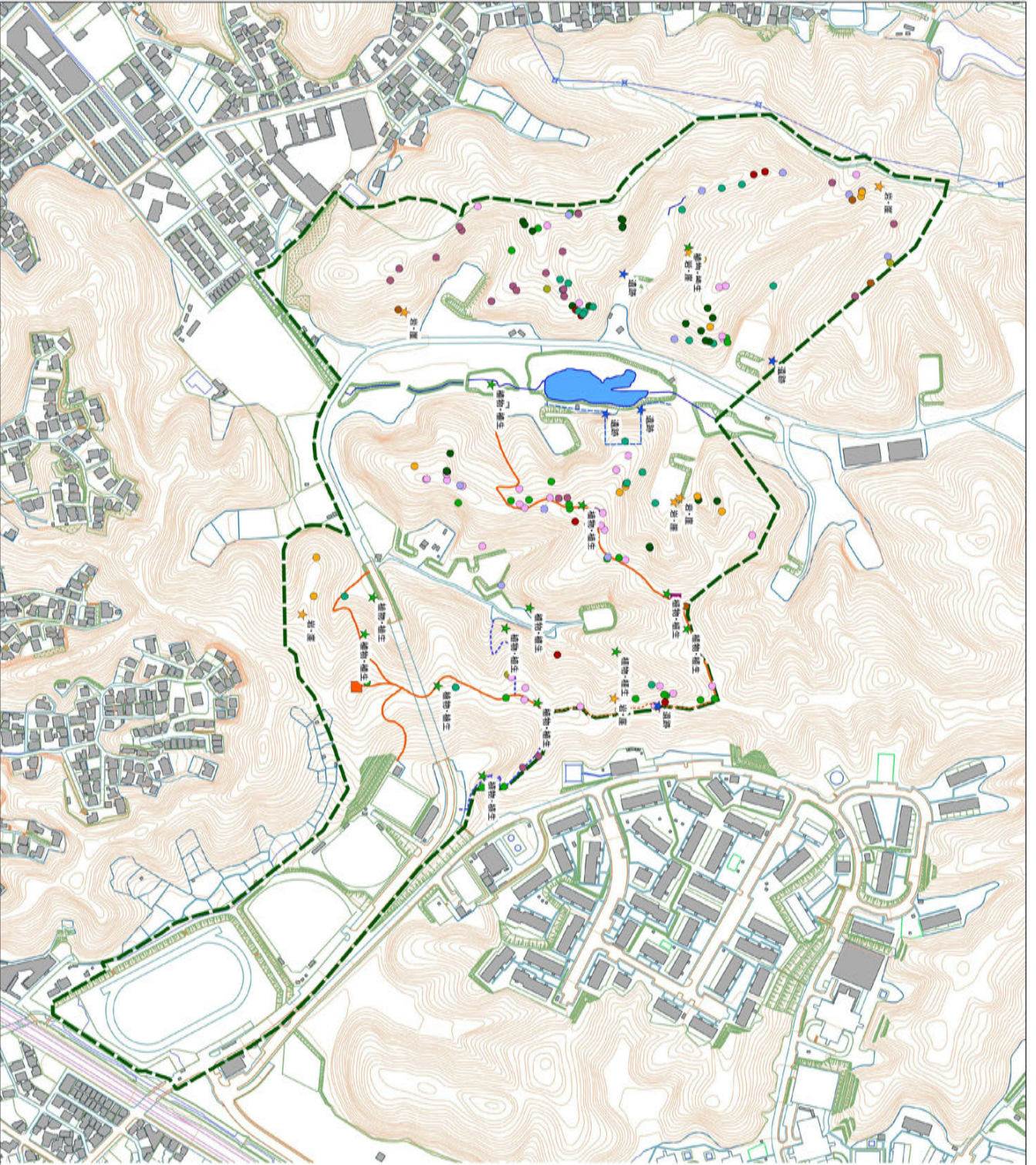


- | | |
|--------------|----------------|
| 樹林地 | 1.シイ・カシ林 |
| 2.クヤキ林 | 3.シロダモ・アオキ群落 |
| 4.オシロイ・コナラ群落 | 5.エノキ林 |
| 6.クスノキ林 | 7.スギ・ヒノキ樹林 |
| 8.ヤマブシ等低木林 | 9.スズノボリ等低木林 |
| 草地等 | 10.コナラ林 |
| 11.アスナガサ群落 | 12.ヨシ群落 |
| 13.ヒメカヤ群落 | 14.ハツゲ群落 |
| 15.オキナ群落 | 16.クサノコ群落 |
| 17.ウス・カハル群落 | 18.思性草本群落 |
| 19.雑草群落 | 20.オナモミ群落 |
| 空地等 | 21.路傍群落 |
| 22.崖地通生 | 23.法面群落 |
| 24.植栽地 | 25.空地 |
| 26.人工裸地 | 27.建造物・コンクリート等 |
| 開放水面 | 28.開放水面 |

現地調査結果参考図 1

植生図





- ▲ 景観など
- ★ 遊跡
- ★ 岩・崖
- ★ 植物・樹生
- 大径木種別
- アカガシ
- アラカシ
- クヌギ
- ヤチキ
- コナラ
- サクラ類
- エビ
- エゾシイ
- その他
- タラシ
- 新規体要所
- 既存体要所
- 既存体要所
- 既存散策路
- 暫定
- 将来
- 新規散策路案
- 将来検討
- 将来検討(付)

大径木は胸高直径60cm程度以上を目安とした。

現地調査結果参考図3
大径木、自然資源候補の分布

